

富士河口湖町 教育センターだより

平成 23 年 1 月 24 日

平成 23 年を迎えて

平成 23 年もスタートして、はや 1 ヶ月が過ぎようとしています。日の過ぎていくことのなんと早いことでしょうか。最近では、「大寒」の字のごとく、澄み切った晴天続きですが、野外の空気はひんやりするほどに冷たく、まわりの風景が鮮明に見えます。

昔、冬の寒い夜、炉辺やこたつに集まって、お年寄りから怖い語や昔話などをきくことが、数少ない娯楽の一つでした。そんな形で民話などが語り継がれていったのでしょうか。最近はどうでしょうか。ゲームやテレビに押され、皆無となってしまいました。先日、子どもの頃、「お天神講」と称して、同級生の家に集まり、夕飯をごちそうしていただき、夜遊んだことを思い出しました。素朴な生活の中に、家族との、友達との、近所との絆があったのだと思います。昔には戻れませんが、未来を託す子ども達が、「絆」や「情」を大切にしてくれることを願ってやみません。

「今時の子どもは…」とか「今時の若者は…」という言葉をよく耳にします。時代と共に、人も変化しています。昔にはなかった善行もたくさんあります。今年は、若者のプラスをたくさん見つけて、心の貯金箱にチャリンチャリンと貯めてみませんか。心がほっこりしてくると思います。

<富士河口湖広報>より

昨年 4 月から、定期的に「教育センターからのお知らせ」と題して、不登校やいじめの問題について、少しお話をしてきました。教育センターをもっと身を感じてもらい、小さなつまづきや小さな問題のうちに解決できるようにと、広報活動にも力を入れています。町の呼びかけや活動が定着し、小さな子どもを持つ親の悩みは気軽に相談できるようになりました。子どもに対する悩みは大きくなるとう同じです。思春期の悩み、一緒に考えていきたいと思っています。

<豊茂小学校を尋ねて>

富士山が間近に見える、豊茂小学校に行ってきました。全校生徒 30 人あまりの小さな学校です。子ども達は親切で情があり、とても気持ちよく迎えてくれました。教育もしっかり行き届き、けじめのある生活ぶりに関心させられました。小さな学校は、たとえ 1 年生であろうとも、一人ひとりの分担がしっかりできていて、それぞれが自分の責任を果たさないと、すぐに、みんなに迷惑がかかります。学年の枠を越えて協力しあうことは必須です。小さい学校だからこそ、みんなで力を合わせることを肌で覚えていくのだと思いました。

